

赤間の炭焼窯群

恩納村教育委員会では、平成28年4月18日より恩納バイパス・恩納南バイパス事業に伴う文化財調査で、赤間の炭焼窯群約40基のうち2基を対象に記録保存を目的とした埋蔵文化財発掘調査を実施しました。調査対象となった炭焼窯の2箇所共に川沿いの斜面を掘り込んで窯を造る構造で、周辺には作業場として利用したと考えられる平場がありました。炭焼窯の構造には、炭を焼く燃焼室と火をたく窯口、煙の通り道の煙道などがあり、粘土を造ったと考えられる穴など確認されました。炭焼窯が造られる場所には、共通した条件が見られました。まず、炭を造る際に必要な炭の材料である木材(シイの木など)があり、窯の天井や窯口をふさぐための粘土と水などがある場所に造られています。

今回調査した炭焼窯2基ともに炭を造って使用しなくなった窯で天井や焼いた炭は無い状態でした。窯を造った時期や使用した年代は、地域の方々の聞き取りから戦前から戦後にかけて使用したのではないかとのことでした。年代を示す焼き物などの出土遺物は無かったことから詳細な年代は今のところ不明です。情報をお持ちの方がいましたら情報提供のほどよろしくお願いいたします。(文化財担当:崎原)



▲炭焼窯全景(11地点)



▲作業風景



▲赤間の炭焼窯分布図



▲赤間の炭焼窯(11地点)窯口

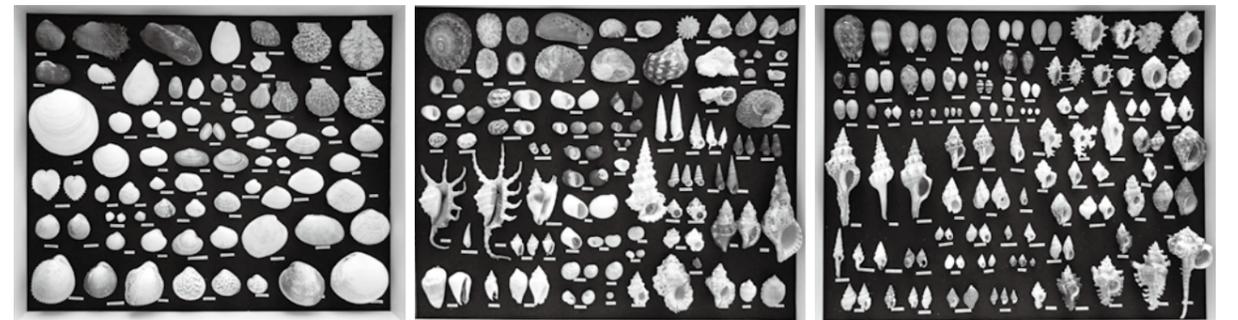


▲測量風景

貝の標本を展示中!

博物館展示ホールでは現在、貝類の標本を展示しています。平成26年3月に刊行された『恩納村誌 第一巻 自然編』の調査の際に、調査員をされていた沖縄県水産海洋技術センターの久保弘文氏が南恩納の屋嘉田潟原で採集した貝を標本として提供していただきました。

今回提供していただいた貝類はハマグリなどでお馴染みの二枚貝やタカラガイ・スイジガイなどの巻貝の仲間、陸生のマイマイなど330種類以上あります。中には可愛いハート型をした「リュウキュウアオイ」や真っ白な色をしている綺麗な「ウミウサギ」などの変わった貝も含まれています。どの貝も色や形など見ごたえ十分ですので、この機会に是非、博物館に来館していただき、ご覧ください。



博物館講座「海藻おしば作り」を開催しました。

8月14日に恩納村博物館研修室にて博物館講座「海藻おしば作り」を開催しました。午前、午後の2回開催した講座には合わせて20名の方に参加していただき、それぞれが海藻を使って作る「海藻おしば」に挑戦しました。

講座では最初に海藻について映像で学びました。その後、職員から「海藻おしば」の作り方を教わりながら、作品作りに取り組みました。使用した海藻は村内の浅瀬で採れる物や特産品となっている海ブドウ、モズクなどを使い、参加者たちがしおりやポストカードサイズのものなど思い思いのオリジナル作品を作り上げました。

今回の講座が夏休みの工作や思い出作りに役立っていれば博物館としても嬉しい限りです。



▲講座風景



▲講座風景

(学芸員 後藤)